

# 横浜市立すみれが丘小学校 平成31年度 体育・健康プラン

## ～体育・健康に関する指導の全体計画～

### 1 中期学校経営方針

#### (1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
豊かな人間関係の中で一人ひとりが自分のよさを十分に発揮し、互いに高め合う子	自分づくりに関する力 言語能力

#### (2) 中期取組目標

中期取組目標
<p>○いろいろな人との豊かなかかわり合いを通して自分や他者のよさを理解し、自分の思いをできる子を育てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話的な学習、体験的な学習などを通して、主体的に友達と学び合い、自分の考えを表現し、深めていけるようにします。</li> <li>・交流活動や体験活動を重視し、互いに認め合う心や自尊感情を高め、自信をもてるようにします。</li> <li>・児童理解に基づいた児童指導を全教職員の共通理解のもとに進め、迅速・正確・丁寧に対応します。</li> <li>・学校運営協議会、サポーター協議会、PTA組織を生かし、児童の豊かな教育活動につなげていきます。</li> </ul>

#### (3) 体育・健康に関する指導の重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①大きなけが、病気の予防に向けて安全・保健指導に取り組む。 ②一校一実践運動を通して、年間通じて体力の向上を図る。 ③養護教諭、調理員、栄養職員と連携して食育に関する授業を行う。 ④学校保健委員会を軸に心の健康について取り組んでいく。
担当	指導部

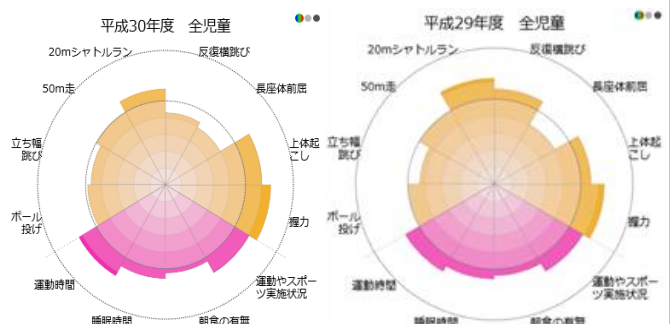
### 2 体育・健康に関する実態把握

#### (1) 体育・健康に関する実態

- ・学校の体育の時間を除いて運動する子や休日の運動クラブに所属している児童が、市の平均よりも多くいる。しかし、近隣の公園でできる遊びが限られていることや、塾に通っている児童が多いことなどから、体を動かす習慣が身に付いているとは言えない。そのため、よく体を動かす児童とそうでない児童との二極化が見られる。
- ・はみがき検査の結果、よくみがけていると判定された児童は6割を越えている。自分の歯の状況を考え、継続していく必要がある。

#### (2) 体力の概要と要因の分析

30年度の新体力テストの結果を見ると、持久力(20mシャトルラン)、筋力(握力、上体起こし)、が市平均を上回っている。ここ数年、学校保健委員会での取組みで、体力アップについて行ってきた。そのことから、持久力は安定してきた。しかし、2年間の結果を見てみると、柔軟性(長座体前屈)と敏捷性(反復横跳び)、瞬発力(立ち幅跳び)に課題が見られる。



### 3 体育・健康に関する具体的取組

#### 教科

##### 《体育科での取組》

運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、主体的に課題解決する力を育む。

- ・児童が仲間と対話したり、学習資料を活用したりすることを通して、主体的に取り組む授業から、運動の楽しさや喜びを味わい、運動の日常化につなげられるようにする。
- ・保健分野では、養護教諭と連携しながら、興味・関心をもてるように学習を進める。

##### 《他教科での取組》

健康な生活を実践する態度を育む。

- ・家庭科では、バランスの良い食事への意識向上など、食育指導に取り組む。
- ・食に関する興味・関心を高めるため、栄養職員と連携し、食育の授業を行う。

#### 特別活動・総合的な学習の時間

- すみれ運動会では、児童一人ひとりが目標をもって取り組み、友達と協力しながら活動ができるようにする。
- 運動委員会では、運動イベントの企画・運営し、体を動かすことの楽しさを感じられるようにする。
- 保健委員会では、児童の健康面での課題を解決し、健康づくりをめざせるような取り組みをする。
- 給食委員会では、食事の大切さや献立の栄養面を伝え、バランスを考えた食生活を目指せるようにする。
- 養護教諭、調理員、栄養職員と連携しながら、食育に関する授業を行う。

#### 課外活動

- マリノス食育教室などの出前授業の活用。
- 運動委員会の運動イベントで、体を動かす楽しさや運動の日常化につなげられるようにする。
- 夏休み水泳教室、市体育大会などの体育的行事に向けて、運動の機会を増やす。
- 年2回の学校保健委員会において、「礼をつくして 思い合って」に関する取り組みを推進する。
- けがや病気について関心をもてるような取り組みを行う。

#### 平成31年度 すみれが丘小学校 体力向上1校1実践運動

《名称》 めざせ体力・健康アップ！

《ねらい》 クラスや学年の仲間との運動や健康に関する活動を通して、日常生活の中に運動を積極的に取り入れようとする態度を育成する。

《内容》

- ・運動委員会が運動イベントを企画・運営して運動機会の確保への取組を進める。  
(例)・校内水泳大会・長縄大会・ドッジビー大会・なわとび名人
- ・保健委員会 保健集会での「お互いを思い合う言葉の使い方」の啓発・取組を推進する。
- ・規則正しい生活習慣への取組を行う。

●指 標： ①生活実態調査「運動やスポーツの実施状況」 「睡眠時間」 「朝食摂取状況」  
「1日の運動、スポーツの実施時間」

②市学力・学習状況調査の意識調査と子どもの活動状況との分析